

# 「オールおごおり」で取り組む 学力向上プロジェクト

4校そろって一層信頼される学校へ



小郡小学校



小郡中学校



上郷小学校



小郡南小学校

平成28年6月

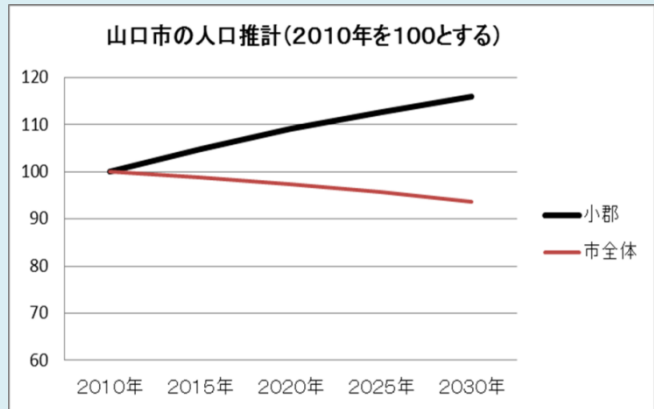
「小郡地域小中連携推進プラン」学力向上に関する部会

## 1 地域の実態

山口市南部に位置する小郡地域は、古くは山陽道と石州街道との分岐点として栄えた。現在では県中部唯一の新幹線駅新山口駅が置かれ、山口県の交通の要所、商業地域として再開発が進み、人口約2万5千人の市内で最も住民の多いマンモス地域となり、田園を取り囲む中にビルが林立する光景となっている。

また、山口市の総合計画では、将来都市像として「ひと、まち、歴史と自然が輝く交流と創造のまち山口」を掲げ、これを実現するための政策の一つとして「広域県中央都市の創造」を掲げ、広域経済・交流圏の中で、山口・小郡の両都市核を中心としたまちづくりが進められている。

現在、山口市全体では、平成22年度から人口減少に転じているが、推計によると、小郡地域だけは市内でも唯一、今後も人口増加が見込まれており、さらなる発展が期待されている活力ある地域として、豊富なマンパワーに支えられ、教育に造詣の深い人材が多く、地域がもつ教育力のポテンシャルは極めて高い。さらに、地域づくり計画では、「交通の利便性を生かし、山口市南部の核となるまち」を将来像として描き、事業テーマとして「地域のブランド化」を前面に押し出して、スケールの大きな地域活動が活発に展開されている。



## 2 小郡教育ブランド化プロジェクト

地域づくり計画の事業テーマを受け、「地域の教育力一番 ～子育てするなら小郡地域で～」を合い言葉に「知、徳、体のバランスがとれた、地域の明日を担う子どもの育成」を目標として、子どもが安心・安全に育つまちづくりをめざした小郡中学校区地域協育ネット（OKネット）の取組を進めている。

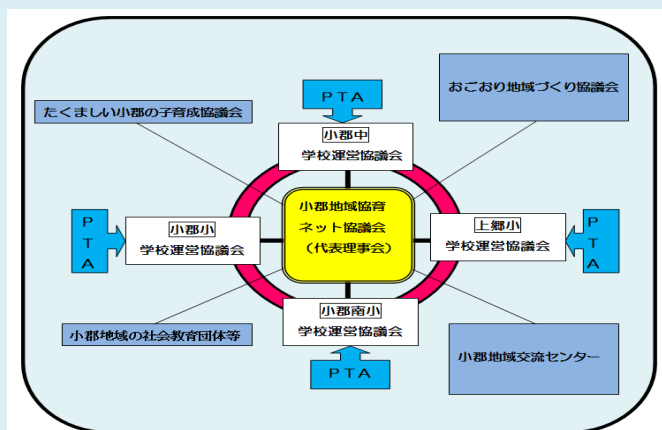
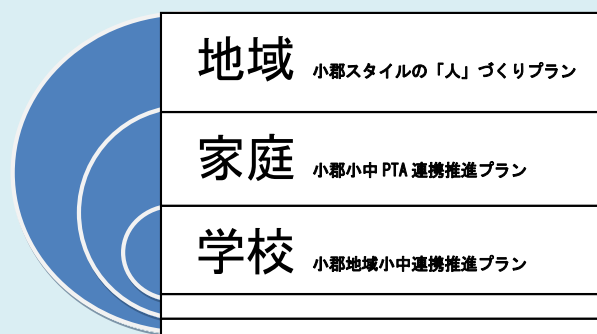
この取組を通して、各学校の学校運営協議会との連携、協働が深まり、小郡地域づくり協議会、小郡地域交流センターをはじめ、小郡地域の各社会教育団体等を含めた地域で子どもたちを育てていく機運が高まっている。その中で一昨年度から、地震、津波を想定した地域と合同の避難訓練を実施している。



## 小郡教育ブランド化プロジェクト

～小郡中学校区地域協育ネット～

知、徳、体のバランスがとれた、  
地域の明日を担う子どもの育成  
- 子どもが安心・安全に育つまちづくり(2年次) -



### 3 小郡地域小中連携推進プラン

小郡教育ブランド化プロジェクトは地域、家庭、学校の3つの基軸の中に4校そろって9年間で育てる児童生徒の育成を基盤とした取組を推進しようとする「小郡地域小中連携推進プラン」がある。

「4校そろって一層信頼される学校」をめざすこの取組を強力に推進し、小郡地区小中学校全教職員が「オールおごおり」の意識をもって真摯に取り組む姿こそが「小郡教育ブランド化」の定着を図る礎となるものとして、4校が共通実践の推進に取り組んでいる。

本年度は、昨年度までの「学力向上に関する部会」、「豊かな心に関する部会」、「たくましい体に関する部会」の3部会に「ICT環境活用に関する部会」を加え、小郡地区の児童生徒の実態を詳細に把握した上で、共同した取組を進めていながらこれを補充、深化、統合していくことで、小郡地区の全児童生徒の夢の実現に向けた支援を加速させていくこととした。

# 小郡教育ブランド化プロジェクト

## —小郡地域小中連携推進プラン—

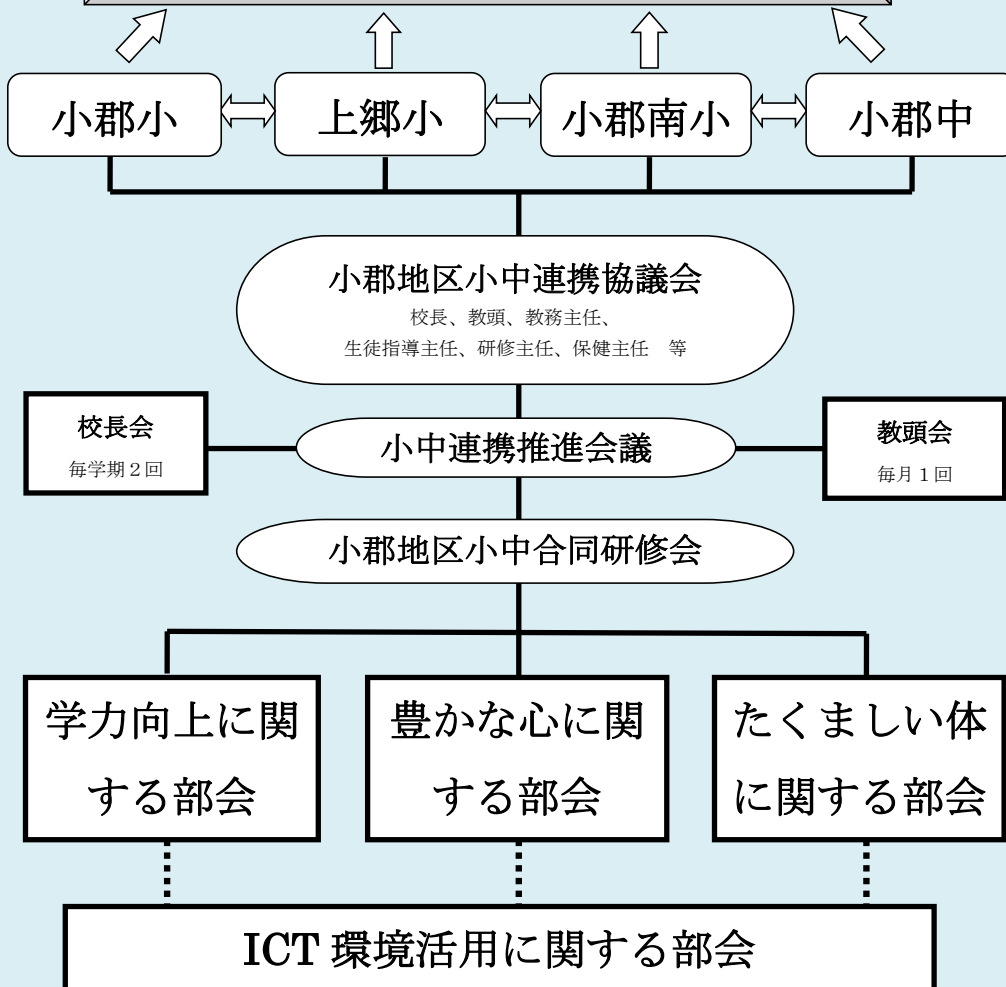
**4校そろって一層信頼される学校へ！**

P-TRUST2013 関係的信頼係数 33.1→34.1→35

※ P-TRUST については  
次頁を参照

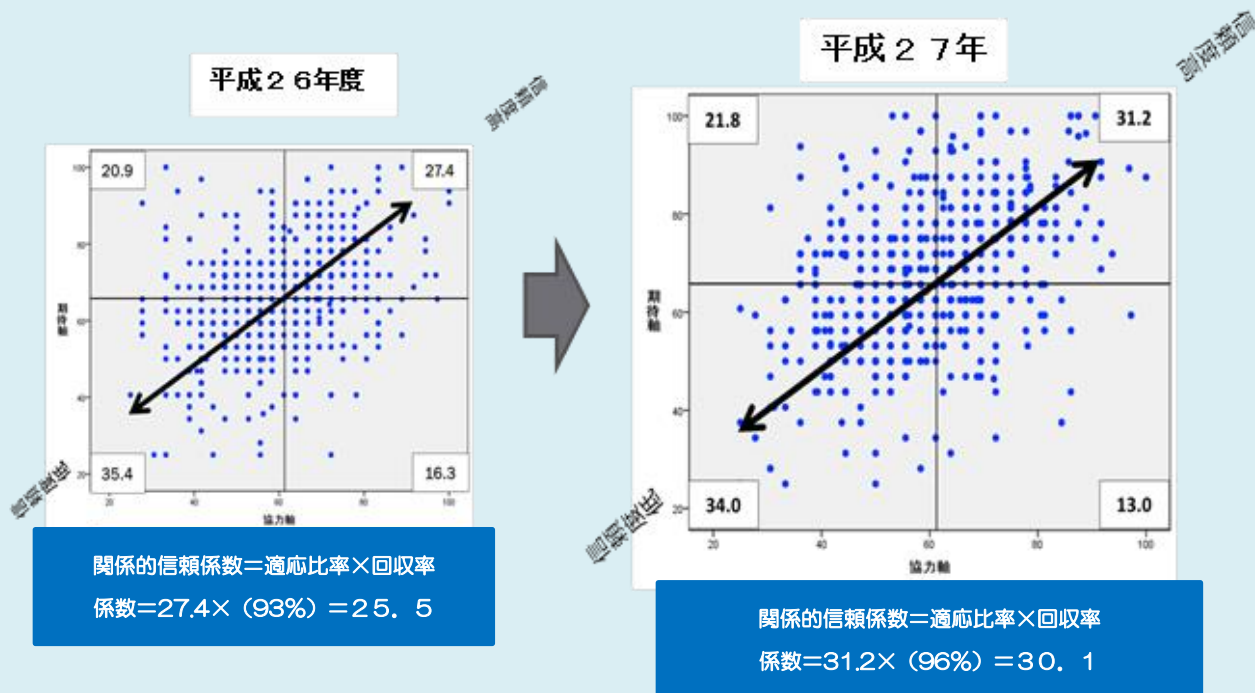
**知、徳、体 のバランスがとれた、  
地域の明日を担う子どもの育成**

- 子どもが安心・安全に育つまちづくり(2年次) -





また、本プランの成果を具体的な指標で継続的に検証していくために、小郡地域4小中学校は、毎年、愛媛大学教育学部教授 露口健司氏 が考案した P-trust 関係的信頼係数を利用して、保護者の学校に対する信頼度を客観的に把握している。本資料の基準値は小学校保護者約 20,000 名、中学校保護者約 8,000 名の平均値を利用したものであり、28ポイント以上が信頼される学校の目安とされている。



く上図は小郡中の平成26年度、27年度の結果を表している。グラフ上の点一つひとつが保護者を表しており、グラフ右上（第1象限）のデータ数が多いほど、学校への信頼度が高いことを表している。また、関係的信頼係数は適応比率に回収率を乗じて求められる。>

保護者を対象に実施したアンケート調査は、露口教授によりデータ分析が行われる。その結果、26年度の4校の関係的信頼係数の平均値が33.1であったものが、27年度には34.1へ向上させることができた。このことから、4校そろって「小郡地域小中連携推進プラン」にそって真摯に取り組んできた成果が表れてきており、本年度はさらなる保護者の信頼感向上をめざし、目標値を35にしている。

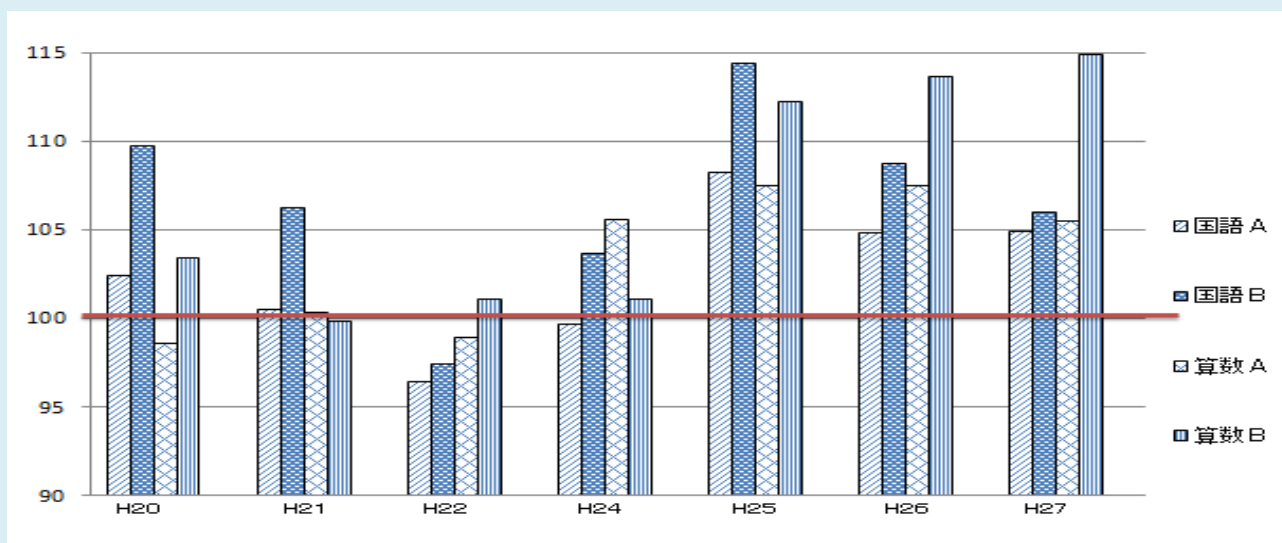
また、4校のデータ分析から、いずれの学校も基準値の28を超えており、保護者の高い信頼度のもとで、児童生徒の育成に関して、保護者が学校と一緒にになって取り組もうとする意識の高さが伺われる。また、一昨年度に続き小郡中に露口教授を招聘し、P-trustの各校の詳細な分析や研修を進めていることで、今後各校の課題は異なるものの、前述した地域の潜在能力の高さを踏まえると、取組次第では、さらなる信頼感の向上が見込まれる。

露口教授（「生き生きと学校に通う」子ども像とその決定要因の把握 H27実施）から、信頼係数の高い学校の特徴は、「学校の先生は保護者の意見に耳を傾けている」「悩みや心配事を、学校・先生と共有できている」「学校の先生に親しみを感じる」等の意識が小学校、中学校とも、非常に高く、学力向上に関する学校への期待も非常に高くなることを示している。また、同調査研究により教員に対する期待（してほしいこと）について児童生徒に調査した結果、「分かりやすい授業をしてほしい」、「私たちのことを第一に考えて行動してほしい」という項目の期待値が大きいという結果が出ている。

この分析結果から、4校のめざす方向性は「授業改善」であり、授業改善の根底に据えるものとしては、子どもたちのもっている内なる力を引き出すため、称賛したり、価値付けたりしながら子どもたち自身の学びの良さや成長した姿を意味付けしていくことが大切であることが明確になった。

#### 4 小郡地域の児童生徒の実態

小郡地域4小中学校では、平成26年度より小中連携の取組を通して全国学力・学習状況調査のデータを継続して共有し、各校に見られる成果（良さ）や課題を明確に示し、その結果を学校運営改善に役立てている。

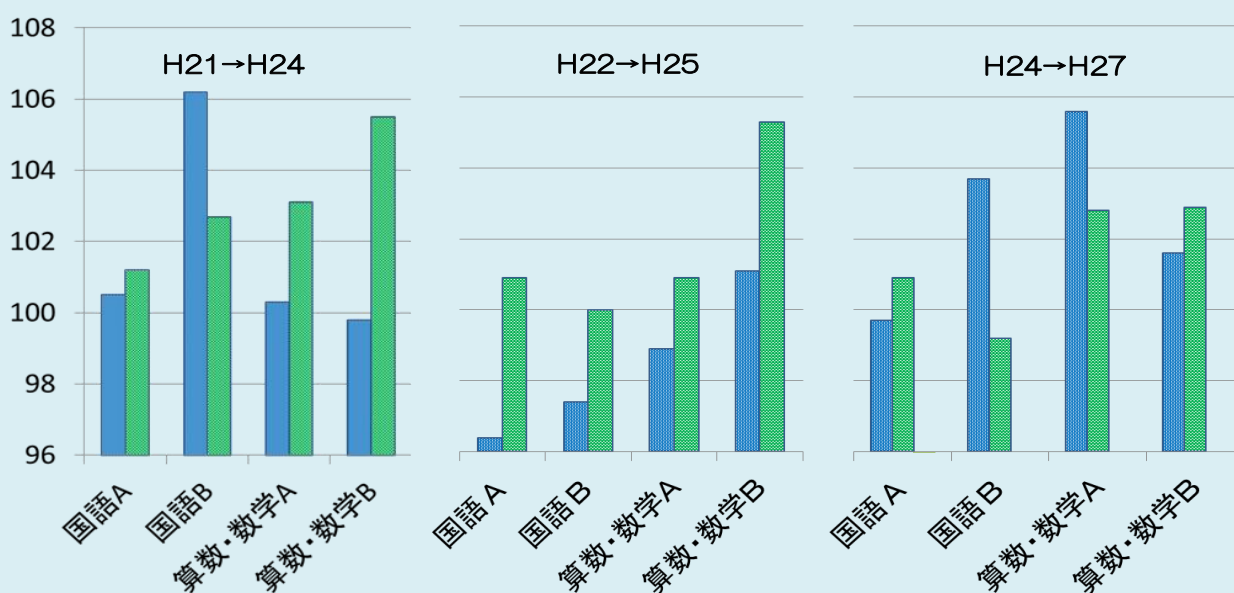


小郡地域3小学校における全国学力・学習状況調査（平成20年度から平成27年度 全国平均を100として表したもの）の結果をグラフから読み取ると、平成22年度を除き、おおむね全国平均を上回る結果が出ている。特に平成25年度からは、全国平均を全ての教科で大きく上回っており、全国比105を超える好結果をあげており、学力向上に向けた3小学校の取組の成果が顕著に表れている。

この結果の要因は、以前から取組を継続してきた小中連携教育や小小連携教育の成果であり、4校の教職員の意識の共有化を図るための協議会や合同の研修会を通して、常に小郡地区の教職員が地域の子どもたちを自分たちの力で育てていく意識をもって取り組んだ結果である。

また、中学校においても、同様の傾向が見られ、年度によって多少の優劣はあるものの、これまでいずれの教科についても全国平均をほぼ上回ってきており、生徒の学力定着が図れてきている。

さらに、9年間の児童生徒の学びを保障していくために、小学校6年生での正答率と中学校3年生での正答率を比較して、追跡調査として児童生徒の変容も分析している。



（小学校から中学校3年生までの追跡調査 平成21年度から）

■ 小学6年生      ■ 中学校3年生

この追跡調査の結果、年度や教科によって多少の違いはあるものの、おおむね、**小学校での学力を基盤として中学校でさらなる学力の向上を図ることができていることがわかる。**

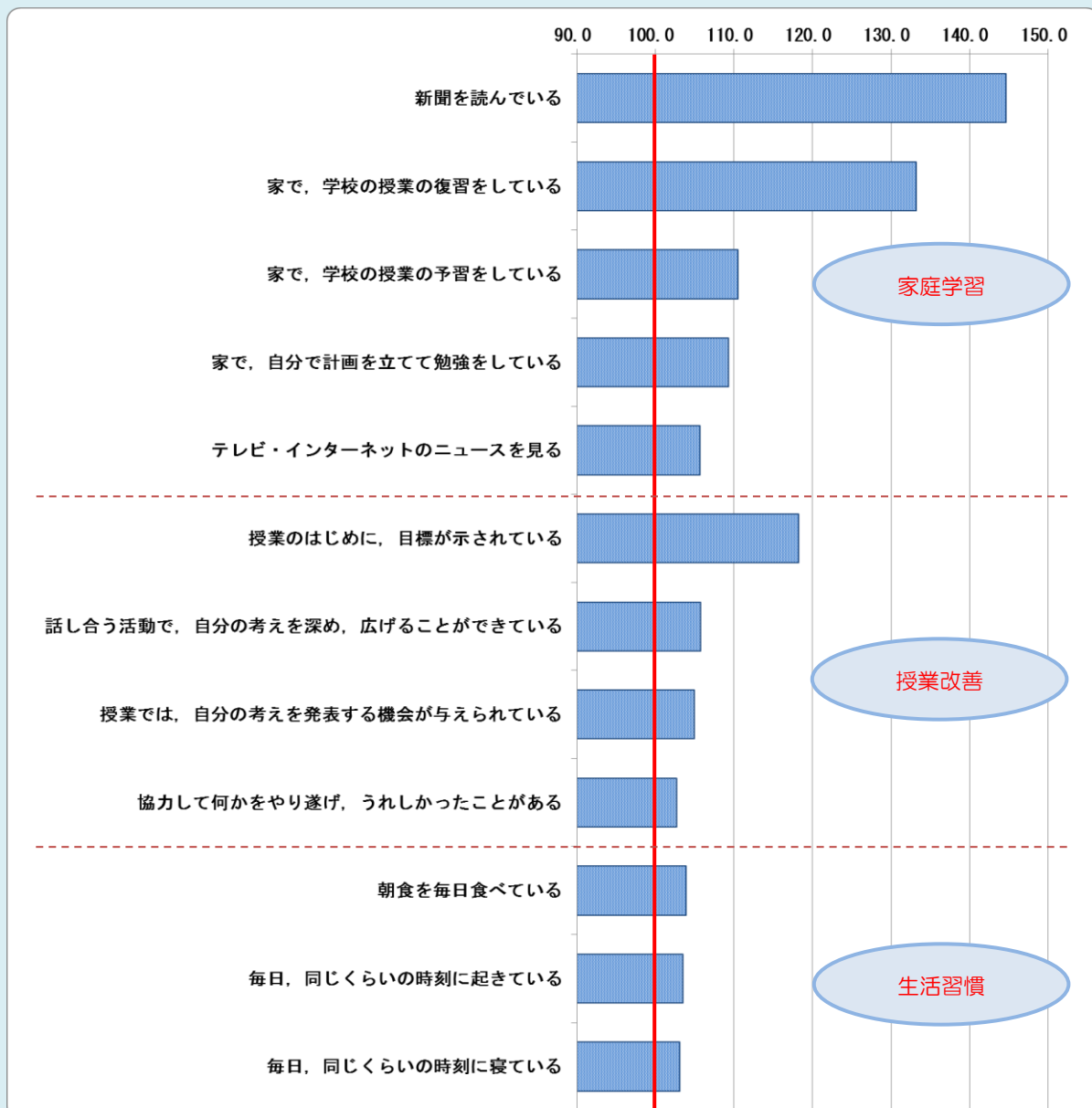
3小学校での校内研修が充実し、授業改善が図られ、学習規律、基礎・基本の徹底などの学習の基盤づくりがしっかりと行われていることに加えて、中学校での学力向上、授業改善に向けた各プランの具体的な取組、さらには小中において児童生徒の実態を共有し、よりよい児童生徒を育てていこうとする教職員の姿勢がもたらした結果であると捉えている。

課題としては、平成27年度において、小学校で身に付けていた学力を十分に伸ばし切れていない領域や、全国平均を下回る問題も見られた。

今後は、全国平均を上回った結果を上げていることに満足するのではなく、**小郡地域や児童生徒がもつ高い潜在能力に目を向け、小学校での取組の成果の上にさらなる学力向上を図っていくことが重要である。**

中学校においては今後、全国平均を大きく上回る成果を上げた生徒を迎えることになることを踏まえ、小郡教育のブランド化をめざし、地域・保護者の協力の下、生徒のもつ能力をいかにして伸張できるかという課題意識をもって、学力向上、授業改善に積極的に取り組んでいくとともに、小学校との情報共有を密に行っていく必要がある。

下のグラフは平成26年度における全国学力・学習状況調査の児童生徒の質問紙の結果を小郡地域4校でまとめた形で、全国の値との比較により優位にある項目を抽出したものである。



(平成26年度 全国学力・学習状況調査質問紙 小郡地域4小中学校 優位項目)



この結果から、

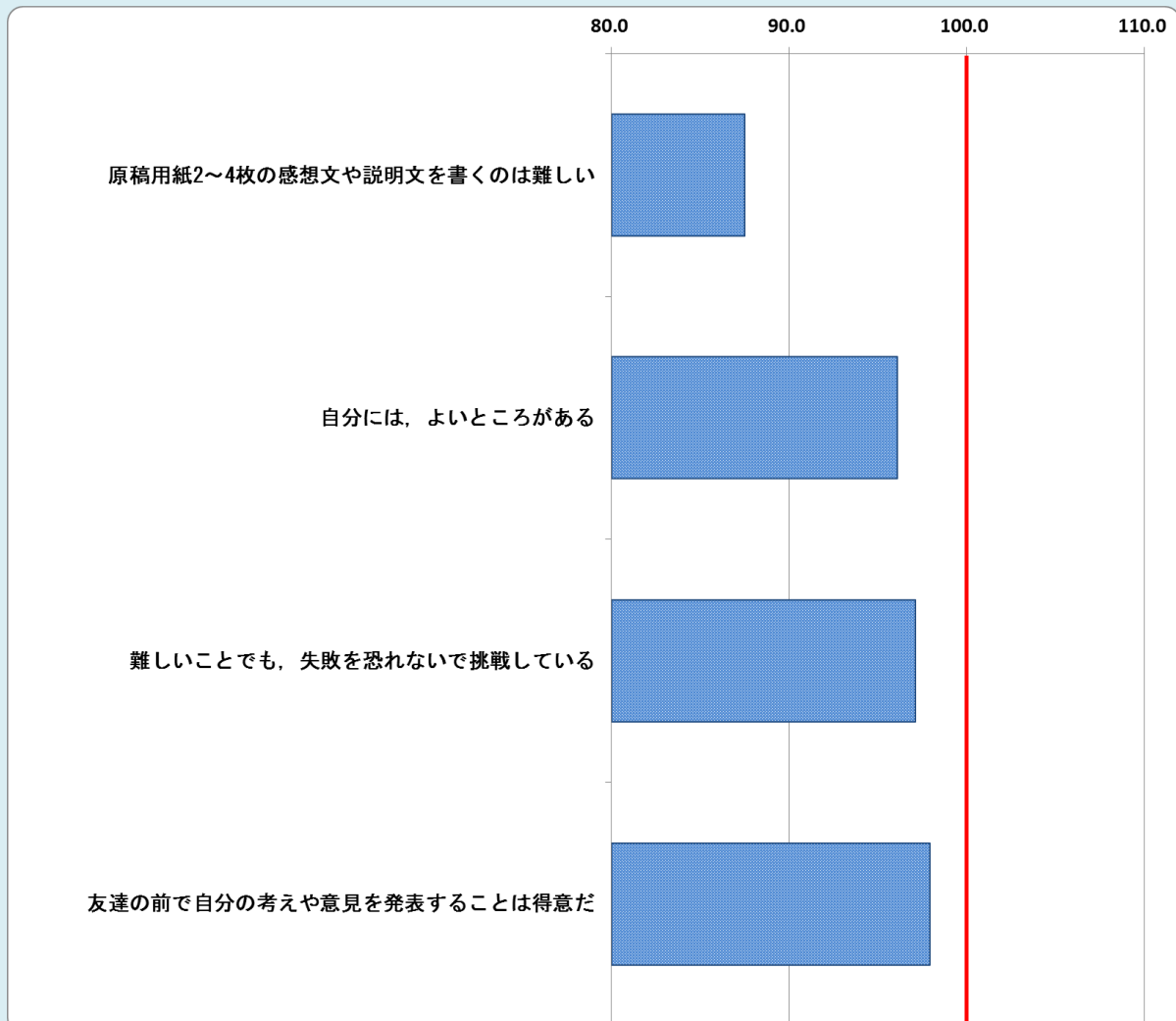
- 1 家庭での学習環境、自主的学習習慣が高い。
- 2 各校における授業改善が進んでいる。（教授型の授業からの脱却）
- 3 基本的な生活習慣が確立している。

ことがわかるとともに、小郡地域の家庭の教育力の高さや、小中が連携した授業改善の取組が進んでいることもわかる。また、前述で示した P-trust の結果でも明記したように、学校の取組もさることながら、保護者や地域の協力が得られている結果でもあり、小郡地区の教育に関する関心の高さをあらためて確認する結果となった。

これまでの分析から、小郡地区の児童生徒の学力は向上傾向にあり、保護者や地域の方々の協力を得ながら、よりよい環境の中で児童生徒の夢の実現に向けた各校での特色ある取組が進められていることがわかる。この素晴らしい環境は、短期間で作り上げることができるものではなく、これまで小郡地域に在籍した教職員が保護者や地域の方々から信頼を得ながら作り上げた、歴史と伝統によるものであることを考えると今後も在籍する教職員で引き継いでいかなければならないものである。

しかしながら、児童生徒質問紙の中で、否定的な回答が高い項目を見ると、高い能力をもちながらも、自分に自信がなかったり、他の人の意見が気になったり、さらには教師からの承認を得られていないと感じている児童生徒が多いことは、小郡地域4小中学校の大きな課題であることが明らかになった。

現在の児童生徒の傾向として、学年が上がるにつけて、自己肯定感や自己有用感は低くなる傾向がある。4校の教職員が十分に児童生徒の取組に対して積極的な価値付けを行うことで、内包する子どもたちの力をさらに引き出すことにつながると考える。



(小郡地域4小中学校で否定的な回答が高い項目 課題)

## 5 これまでの分析結果を踏まえて

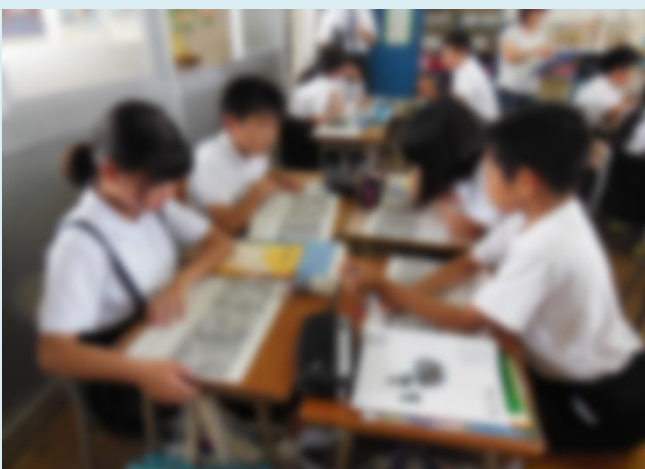
小郡教育ブランド化プロジェクト、小中連携推進プラン、学力向上部会の4校共通取組事項を以下のように設定し、昨年度から各校で取組を始めている。

児童生徒の良さを教師が価値付け、児童生徒に自信をもたせる。

現在、小郡地域4小中学校の教職員が児童生徒の良さを意識し、児童生徒を積極的に認めていくことで、内発的動機付けやチャレンジする意欲の向上を図っている。そうすることで、確かな学力が身に付き、さらには児童生徒の夢の実現を支援することができるという仮説の上で取組を進めている。

本年度は、この取組をさらに具体化し、各校の校内研修に位置付け、推進していくことを各校で共通理解し、授業づくりに取り組むこととした。

この取組を「オールおごおり」で取り組む学力向上プロジェクトと銘打ち、小郡地域4小中学校の共通取組事項として位置付けた。



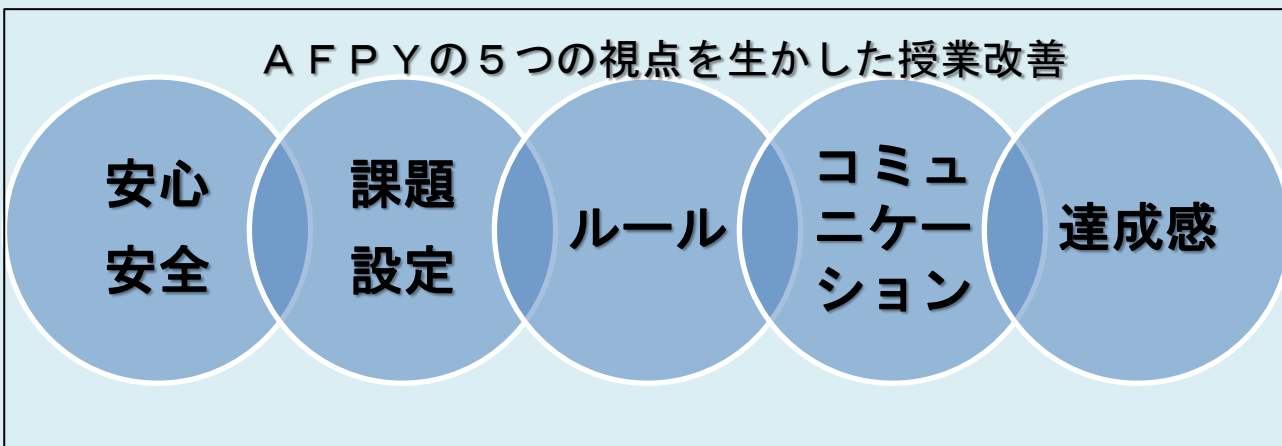
(4小・中学校での授業風景)



## 6 山口市における授業づくりの取組

山口市における授業づくりについては、平成24年度から「AFPYの5つの視点を生かした授業づくり」に基づいて、各学校で継続的に取り組んできている。

小郡地域4小中学校においては、直接的に研修のテーマに含んで校内研修を実施したり、講師として市教委指導主事を招聘して共通理解を図ったりしながら本取組の推進を図っているところであるが、この「AFPYの5つの視点を生かした授業づくり」については、現在、小郡地域4校で取り組んでいる内容と密接に関連しており、4校の共通取組事項を推進していくことこそが、市教委のめざす授業づくりにもつながっていくものであると捉えている。



AFPYの5つの視点の基盤となる「安心・安全」は、小郡教育ブランド化プロジェクトにおいても基盤としている内容であり、授業において、自分の考え方を伝え合うことができる学習環境を整えることは重要な視点の一つである。

また、課題設定に関連する「めあて」と「ふりかえり」のある授業を継続的に展開していくことは、授業改善に欠かすことのできない視点でもある。

次に、コミュニケーションにおいては、小郡地域4小中学校の課題の一つでもある「友達の前で自分の考えや意見を発表すること」に密接に関連しており、各校の実態に即して工夫して取り組む必要のある内容である。

さらに、達成感については、小郡地域4小中学校の学力に関する共通取組事項として掲げた「価値付け」に関するものであり、授業における価値付けが進むことで、児童生徒の満足感や充実感、さらには納得感等が高まり、学習意欲の向上とともに学力の定着を図ることができると捉えている。

なお、小郡地域4小中学校が揃って本取組を推進していくことは、学習面からの小学校から中学校へのなめらかな接続にもつながり、小中連携教育の視点においても重要な取組の一つであると捉えて、積極的に「オールおごおり」で取り組むことが必要である。

